

令和6年度  
長野県医療従事者  
シミュレーション教育指導者研究会

令和6年10月19日

長野県立病院機構 本部研修センター

# 演題発表

# 看護部新規入職職員に行った シミュレーション研修の実践報告

こころの医療センター駒ヶ根

伊藤一郎 酒井史江 研修委員会



長野県医療従事者シミュレーション教指導者研究会

# COIの開示

発表者：◎伊藤一郎

演題発表者に関連し、開示すべきCOI関係にある企業、法人または団体はありません



# シミュレーション研修の位置づけ

令和4年度から開始した「医療安全と患者の権利擁護体制確保」の活動の一環として、CVPPPのディエスカレーションの理解と習得を目的に病棟・外来で研修を実施

# 用語の定義

**【CVPPPとは】**  
**包括的暴力防止プログラム**  
**主に精神科医療、あるいはその関連領域の**  
**施設等で起こる当事者の攻撃、あるいは暴**  
**力を適切にケアするためのプログラム**



# 用語の定義

【ディエスカレーションとは】  
心理的知見をもとに言語的・非言語的な  
コミュニケーション技法によって怒りや衝  
動性、攻撃性をやわらげ、患者を穏やかな  
状態にもどすこと



# シミュレーションチームの構成

シミュレーション教育研修委員	3名
スキルアップ講座受講者	3名
研修委員会	3名

# 看護部新規入職職員の状況

**新規入職者**

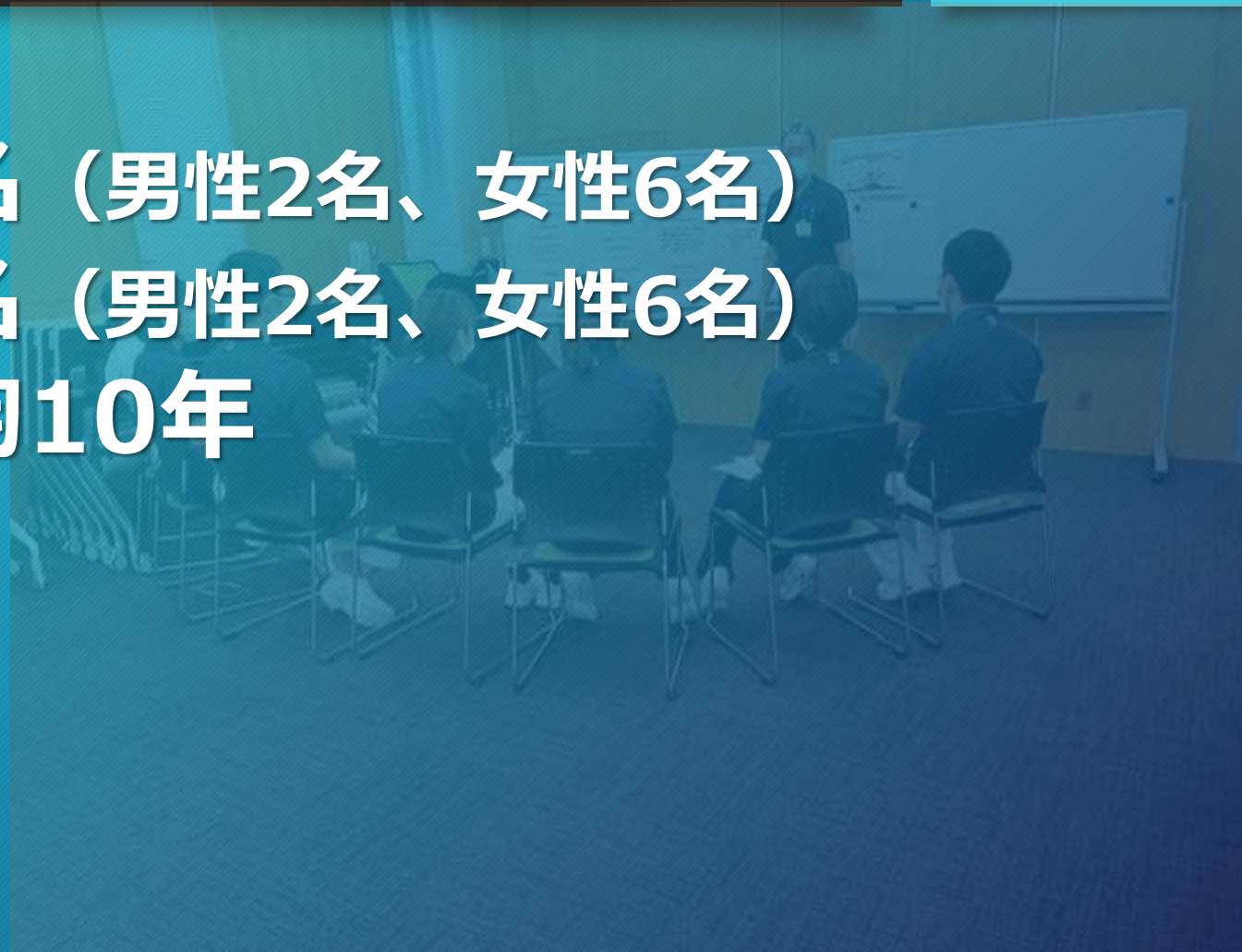
8名（男性2名、女性6名）

一般病床経験者

8名（男性2名、女性6名）

看護師経験年数

平均10年





# 課題

興奮している患者の気持ちに寄り添う  
ような声掛けや方法が分からない



# 実践目標

- 1) 患者の精神状態を観察できる
- 2) 観察した結果から患者の精神状態をアセスメントできる
- 3) アセスメントに沿った対応ができる

# 方法

- 1) シナリオはCVPPPディエスカレーションに沿って作成。
- 2) CVPPPの理念、ディエスカレーションの基本的技術、不安や不満を低下させるスキルを事前学習する。
- 3) シミュレーションとデブリーフィングを2回ずつ行う。



# 場面

模擬患者は、現金を誰かに盗まれてしまった  
たと思い（妄想）、お金を下ろすためにコ  
ンビニまでの外出許可書を提出した。  
しかし、主治医から外出許可が出ていない  
ことが学習者から伝わると、NS-S付近で  
不穏状態になった。



# 実践結果：1回目のシミュレーション

学習者は、不穏患者に対して、戸惑いながらも声掛けをした。

模擬患者は、少しずつ怒りを収めた。

しかし、意図もなく模擬患者の腕に触れたことで、怒りが再燃した。

1回目のシミュレーションは終了。



# 実践結果：1回目のデブリーフィング

- ・ 模擬患者の精神状態の観察

- 「表情、目つきが怖かった」「妄想からの不穏だ」「興奮していた」

- ・ 患者の精神状態

- ディエスカレーションの攻撃が始まり収まるまでの一連の過程参照

- 模擬患者は「怒り」

- 暴力に至れば、その場から避難しチームテクニクス対応

- ・ アセスメントに沿った対応

- 事前学習と「注目」、「傾聴」、「開かれた質問」、「言い換え」、「感情の反映」

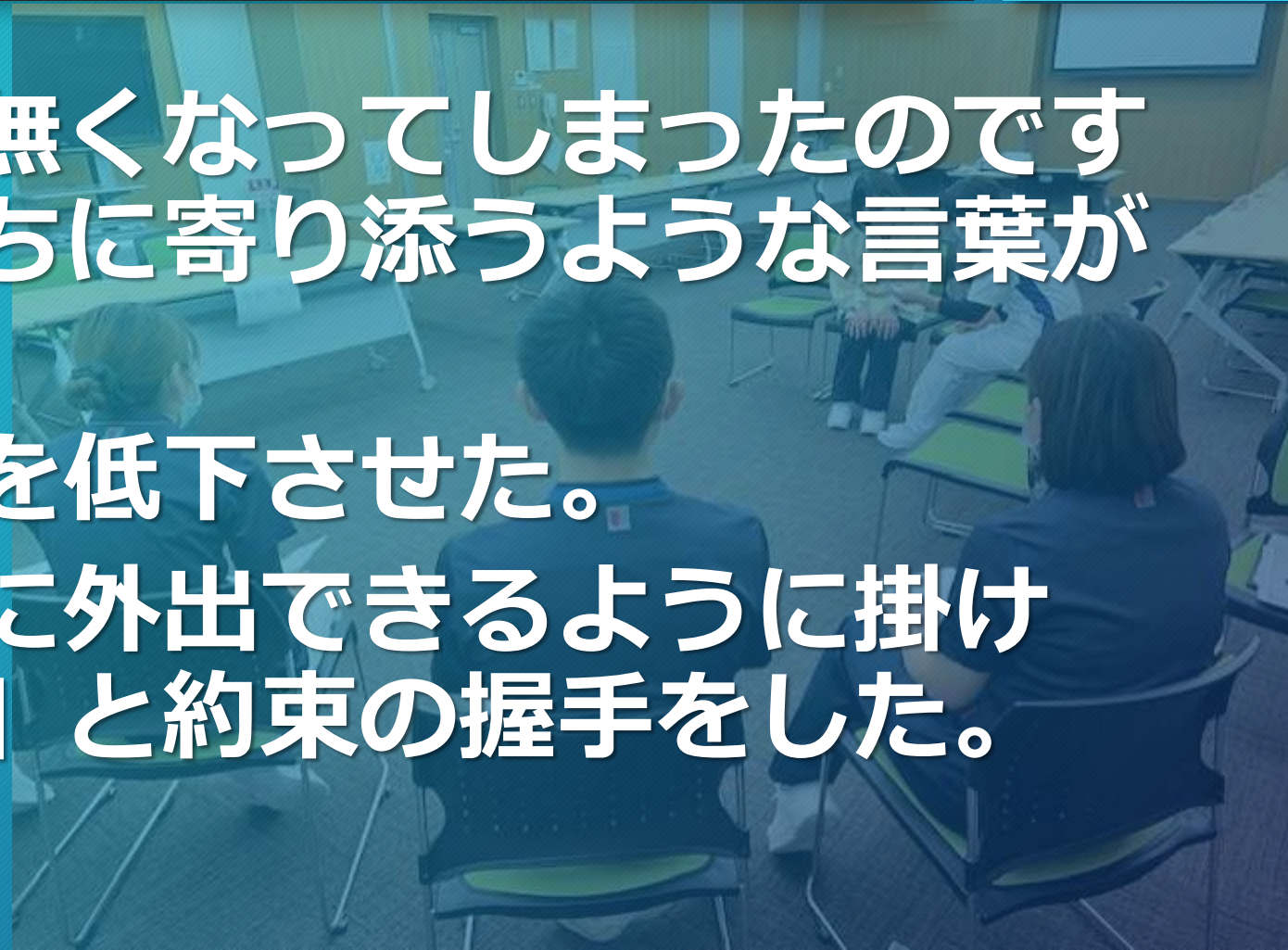


## 実践結果：2回目のシミュレーション

学習者は「お金が無くなってしまったのですね。」など、気持ちに寄り添うような言葉がけをした。

模擬着患者は怒りを低下させた。

学習者から「先生に外出できるように掛け合ってみますね。」と約束の握手をした。





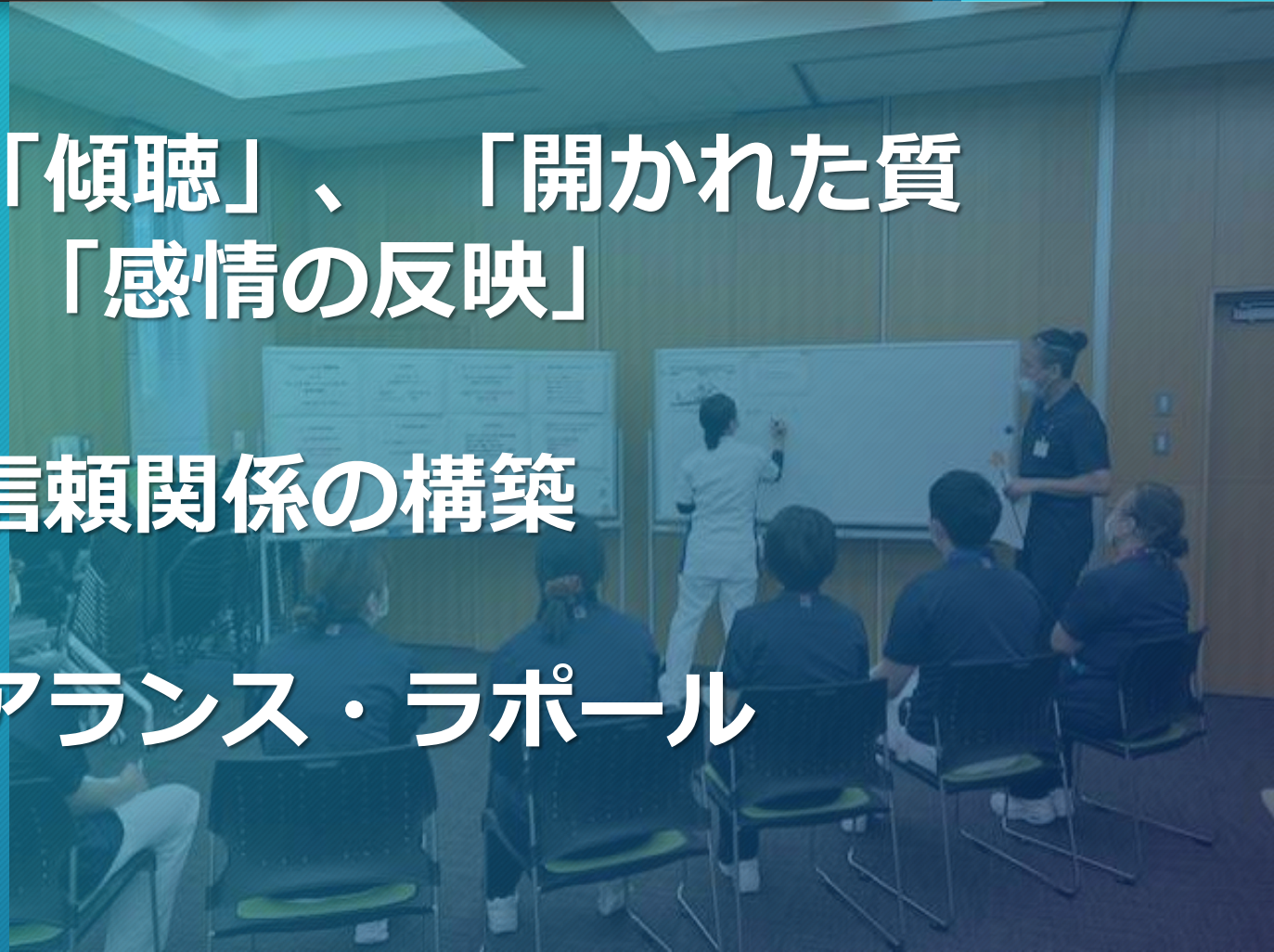
# 実践結果：2回目のデブリーフィング

事前学習と「注目」、「傾聴」、「開かれた質問」、「言い換え」、「感情の反映」

→ 「怒り」の低下・信頼関係の構築



お互いの安全・アドヒアランス・ラポール





# 考 察

- ・ 学習者のアセスメントを促進するために、オリエンテーションで事前学習の確認を行い、デブリーフィングでも事前学習の資料を見ながら振り返りを行ったことで、学習者が知識とシミュレーションを結びつけて考えられるようになり、活発に発言でき、実践目標に到達した答えを導き出せた。
- ・ 1回目のデブリーフィングでは「患者に寄り添う声掛け」「適切な行動」を中心に学習した結果、2回目のシミュレーションでは、患者の怒りを鎮めることができ、効果的なデブリーフィングが行えた。

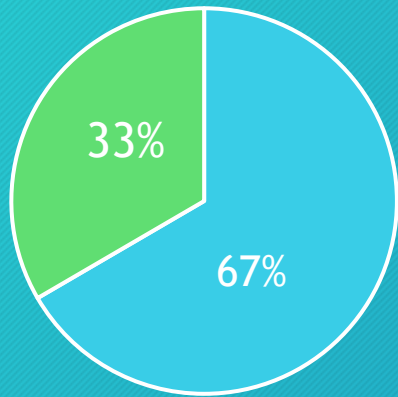


# 今後の課題

- 早期のCVPPP研修の実施
- 関連する委員会などと連携したシミュレーション内容の充実

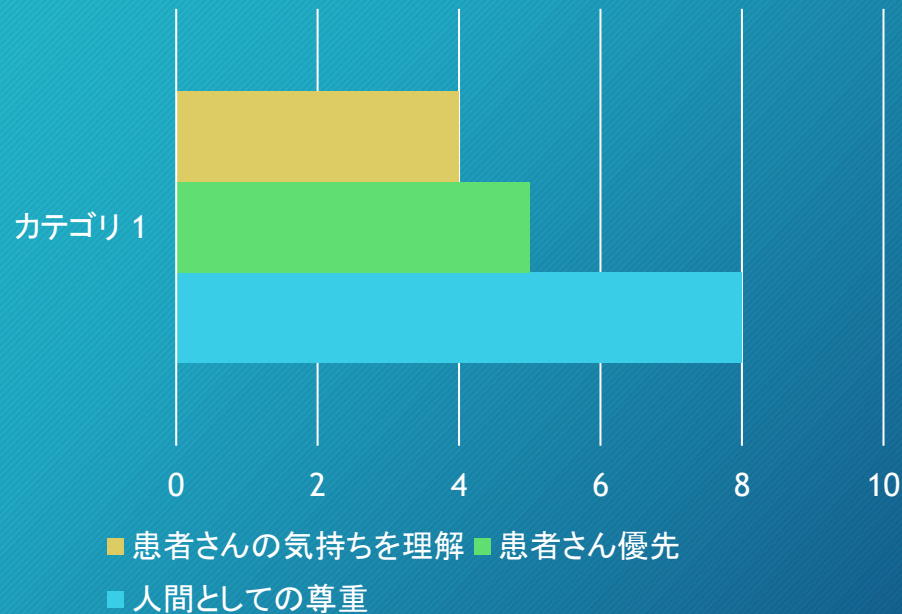
# 3ヶ月後アンケート結果

## ・研修アンケート（対象者8名中6名から回答）



□あった □なかった

Q1：ディエスカレーションが  
役立つ場面があったか



■患者さんの気持ちを理解 ■患者さん優先  
■人間としての尊重

Q2：CVPPPの理念である「パーソンセン  
タード」について、あなたの考え、解釈

- ・目標にはなかったが、CVPPPの考え方を理解してくれていた。
- ・3か月後のアンケートを行ったことで、再度学習することが出来た。





ご清聴ありがとうございました

# 2年目看護師を対象とした 新規シミュレーションの実施と結果

木曽病院 手術室・中央材料室 看護師 羽田 涼介



## 様式2-B

長野県医療従事者シミュレーション教育指導者研究会

# COI 開示

発表者名： ◎羽田 涼介

演題発表に関連し、開示すべきCOI 関係にある企業、  
法人又は団体はありません。

# はじめに

- ▶ 当院では新人看護師を対象に研修の一環としてシミュレーション教育を行なっている。
- ▶ 一昨年度まではシミュレーションを実施する9月～12月にかけて、その時期に新人が就くであろう業務を想定し、「多重課題」「転倒・転落」「窒息」の3つのシミュレーションを行なってきた。
- ▶ しかし、それぞれで概念化したいスキルが異なり、研修後に行なったアンケートでも概念化には個人差があった。
- ▶ また、新人看護師が急変対応に自信が無く、不安も強い事が分かり、急変対応に関連する研修を求めている事も分かった。
- ▶ 学習者のニーズに合わせたシミュレーションの提供を行う必要があった。



# はじめに

- ▶ そこで昨年度から「急変対応に強い看護師の育成」をテーマとし、「ABCDEアプローチ法」「ISBARCによる報告」の概念化を目指し、2回に渡ってシナリオの違うシミュレーションを実施した。
- ▶ 今回、昨年度のシミュレーション教育を受けた2年目看護師を対象として新規のシミュレーションを実施。概念化が得られているか検証を行なった。

# シナリオデザイン

- ▶ テーマ：「薬剤アレルギーへの初期対応」※ブリーフィング時は「急変対応」と説明
- ▶ 対象：2年目看護師 8名 ※4人ずつの2グループに分け、各グループ2回ずつ実施
- ▶ 学習目標：①急変に対するアセスメントが行える
- ▶ ②薬剤アレルギーに対する初期対応が行える
- ▶ ※ブリーフィング時は「急変の初期対応」と説明
- ▶ ③適切な報告が行える
- ▶ 事前課題：①ナーシングスキル「薬剤アレルギー発症予防対策と発症時の対応」  
→動画視聴およびテストの実施
- ▶ ②過去実施したシミュレーション研修の資料の確認



# シナリオデザイン

- ▶ シミュレーション時間：5分
- ▶ ブリーフィング時間：5分
- ▶ デブリーフィング時間：15分
- ▶ 場面設定：平日夜勤帯
- ▶ 患者設定：50代男性。病名、蜂窩織炎。主訴は右足の腫脹、熱感、疼痛。
- ▶ 状況設定：夜勤帯で入院してきた患者からナースコールあり。訪室すると浮動性のめまいを訴えられる。患者は10分前から初回の抗生剤投与を開始していた。
- ▶ 開始から終了まで：ナースコールが鳴った場面から開始。患者の異常に気付きABCDEアプローチ法による全身アセスメントから薬剤アレルギーを推測し、抗生剤を抜去。院内プロトコールに沿って応援要請を行ない、駆け付けた医師にISBARCによる報告を行なって終了。

## 研修後のアンケート

- ▶ 研修後にgoogleフォームを使用した匿名のアンケートを実施。
- ▶ 書面および口頭で今発表会での使用、回答による不利益が生じない事を説明し了承を得た。



# アンケート内容①

- ▶ Q1. 今回のシミュレーション研修は昨年度のシミュレーション研修で学んだスキルを活用できるものとなりました。自身の経験を活かして今回のシミュレーションに対応することが出来ましたか？
- ▶ A. 「はい」 or 「いいえ」
- ▶ → 「はい」と答えた方にお聞きします。理由を教えてください。
- ▶ → 「いいえ」と答えた方にお聞きします。理由を教えてください。
  
- ▶ Q2. 「ABCDEアプローチ法」についてお聞きします。昨年度の研修以降、日常的に使用していますか？
- ▶ A. 「はい」 or 「いいえ」
- ▶ → 「はい」と答えた方にお聞きします。使用している理由を教えてください。
- ▶ → 「いいえ」と答えた方にお聞きします。使用していない理由を教えてください。

## アンケート内容②

- ▶ Q3. 「ISBARC」についてお聞きします。昨年度の研修以降、日常的に使用していますか？
- ▶ A. 「はい」 or 「いいえ」
- ▶ → 「はい」と答えた方にお聞きします。使用している理由を教えてください。
- ▶ → 「いいえ」と答えた方にお聞きします。使用していない理由を教えてください。
  
- ▶ Q4. 今回の研修は次年度以降も開催した方が良いと思いますか？その理由も教えてください。



## シミュレーションの実施

- ▶ 当日、2名が病欠となり6名が参加。3名ずつの2グループに分けて各グループ2回ずつ実施した。各グループ、1回目と2回目で学習者は変更した。
- ▶ 一方のグループが実施中、もう一方のグループは別室にて待機し、シナリオの内容が伝わらないように配慮した。
- ▶ 実際のアセスメントを想定し学習者が目視で観察できるように、患者役の人形に薬疹を模したテープを貼って忠実度を上げた。

# アンケート結果①

- ▶ Q1. 今回のシミュレーション研修は昨年度のシミュレーション研修で学んだスキルを活用できるものとなりました。自身の経験を活かして今回のシミュレーションに対応することが出来ましたか？
- ▶ **6名中6名が「はい」と回答**
- ▶ > 何を観察し、アセスメントし、報告するか、去年の研修や臨床の経験を活かして対応することができた。
- ▶ > ABCDアプローチは自然と行えるようになっていた。足りない部分もあったがISBARCも行えていた。
- ▶ > 去年の研修から、ABCDEアプローチをまず頭に浮かべてアセスメントを行うことの意識付けができていたため、何から見たらいいのか、動けばいいのかわかりやすかった。



## アンケート結果②

- ▶ Q2. 「ABCDEアプローチ法」についてお聞きします。昨年度の研修以降、日常的に使用していますか？
- ▶ **6名中5名が「はい」と回答、1名が「いいえ」と回答**
- ▶ > 繰り返し研修で習うことで、なにも考えなくても出てくるようになってきた。自然に見られるようになってきていると思う。
- ▶ > 普段の検温で意識しながら行っている。
- ▶ > まず何を優先的に判断するのかがわかりやすいため、活用している。
- ▶ > 急変っぽいところにあまり立ち会わない。開眼するか、会話できるか程度でみていた。あまり意識できてなかったと思う。

## アンケート結果③

▶ Q3. 「ISBARC」についてお聞きします。昨年度の研修以降、日常的に使用していますか？

▶ **6名中6名が「はい」と回答**

▶ >先生に報告することが増えて、自然にできるようになってきた。

▶ >先生への報告する機会が増えてきたので、分かりやすく端的に伝えられるよう考えて行っている。

▶ >最終的に何をしてほしいのかまで伝えられるように、長くなり過ぎないように意識している。

## アンケート結果④

- ▶ Q4. 今回の研修は来年度以降も2年目看護師を対象として開催した方が良いと思いますか？
- ▶ 6名中5名が「はい」と回答、1名が「いいえ」と回答
- ▶ > シミュレーション研修は緊張するしやだなーって思うこともあるけどやってみて、なにができてい  
るできていないが明確になるので臨床での力に繋がると思います。
- ▶ > 今までの研修で行ってきたことが、自然とできていたと振り返ることができていたのでその確認の  
ためにも今回研修できてよかった。
- ▶ > 1年間の振り返りとしてもう一度改めてみんなで自分の行動を振り返る大切さを感じられたから。
- ▶ > 薬剤アレルギーは1年目であってもいいと思う



## 考察①

- ▶ シミュレーション時、実際にアセスメントを行なった4名のみだけでなく、見学していた2名からも「ABCDEアプローチ法」を用いた急変対応、「ISBARC」による報告を想像し対応する事が出来た、との回答があった。概念化は得られていたと考える。
- ▶ シナリオを変えて複数回シミュレーションを行なう事は学習者にとって知識やスキルの概念化に繋がりやすいと考えられる。

## 考察②

- ▶ 「ABCDEアプローチ法」を理解し、日常のアセスメントに取り込んで使用している学習者がいる一方で、急変時のみに使用するものと認識していた学習者もいた。
- ▶ しかし、「ISBARC」は6名全員が日常の報告において使用していた。
- ▶ 学習者によって概念化した知識、スキルの理解に違いがあることが分かった。
- ▶ 学習者の理解に差が出ないような指導が必要だと考えられる。

## 今後の課題

- ▶ 人員不足により病院全体が忙しく、新人看護師の育成に有効であってもシミュレーションを複数回実施するには非常に多くの労力を要する。
- ▶ 学習者の理解に差が出ないように、指導者側の指導技術の向上が求められる。
- ▶ しかし、実際にシミュレーションを行なわないと指導技術の向上は難しい。
- ▶ シミュレーションを実施し、続けていくことが最大の課題とも言える。



おわり

ご清聴ありがとうございました。



# 小児集中治療病棟における シミュレーション教育への取り組み



長野県立こども病院  
集中治療病棟

村松美沙 石原克真 中嶋厚子

# 長野県医療従事者シミュレーション教育指導者研究会

COI開示 発表者名：◎村松美沙 石原克真 中嶋厚子



演題発表に関連し、  
開示すべきCOI関係にある  
企業、法人又は団体はありません



# はじめに

R5年度 長野県立こども病院 集中治療病棟

○入室患者数：474名

○心停止症例：12例

○ECMO導入症例：7例



苦手意識がある

熟練した技術の習得が難しい



# はじめに

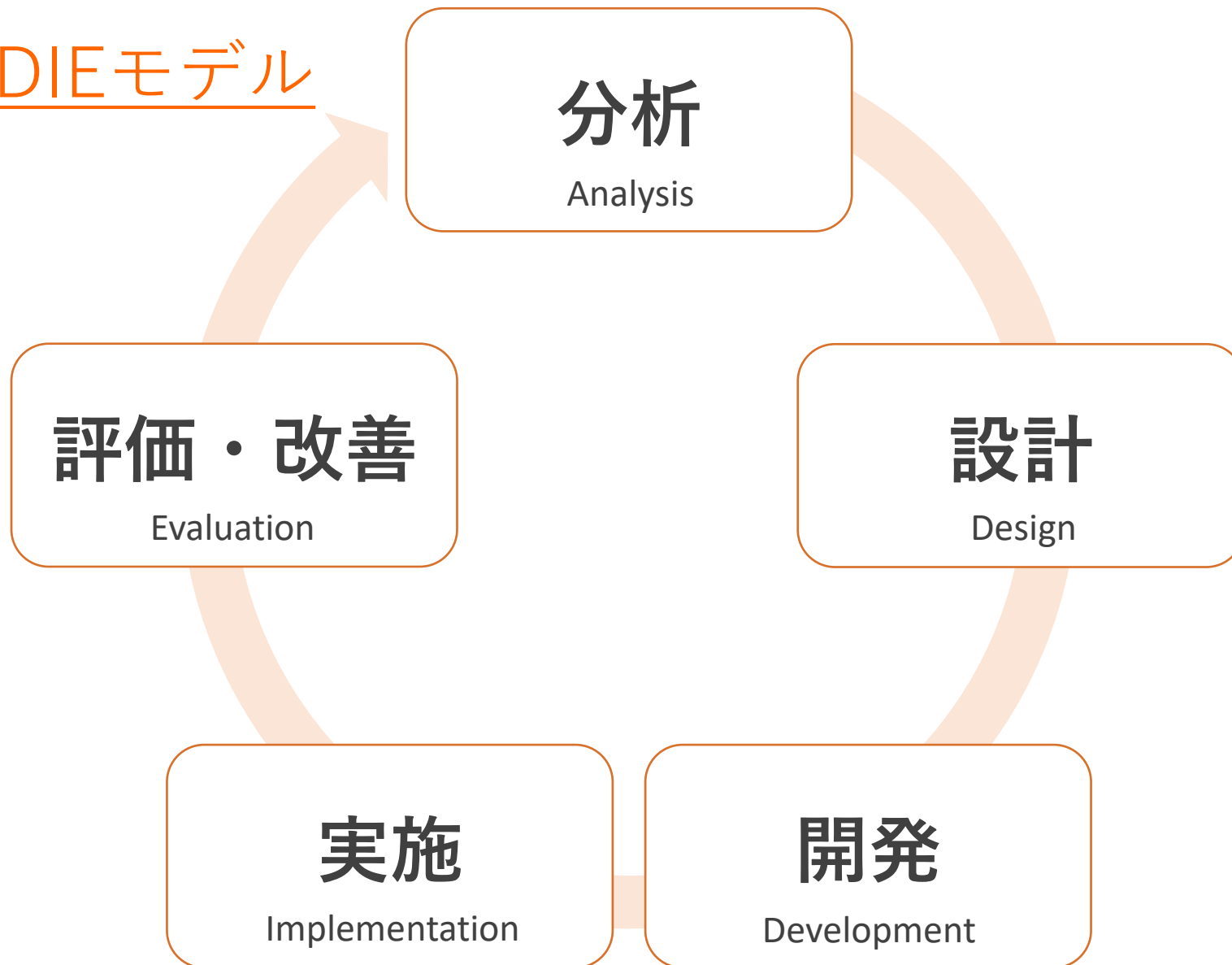
より実践に近い効果的な  
シミュレーション…？





# はじめに

## ADDIEモデル





# 分析

ADDIEモデル

分析

Analysis

設計

Design

評価・改善

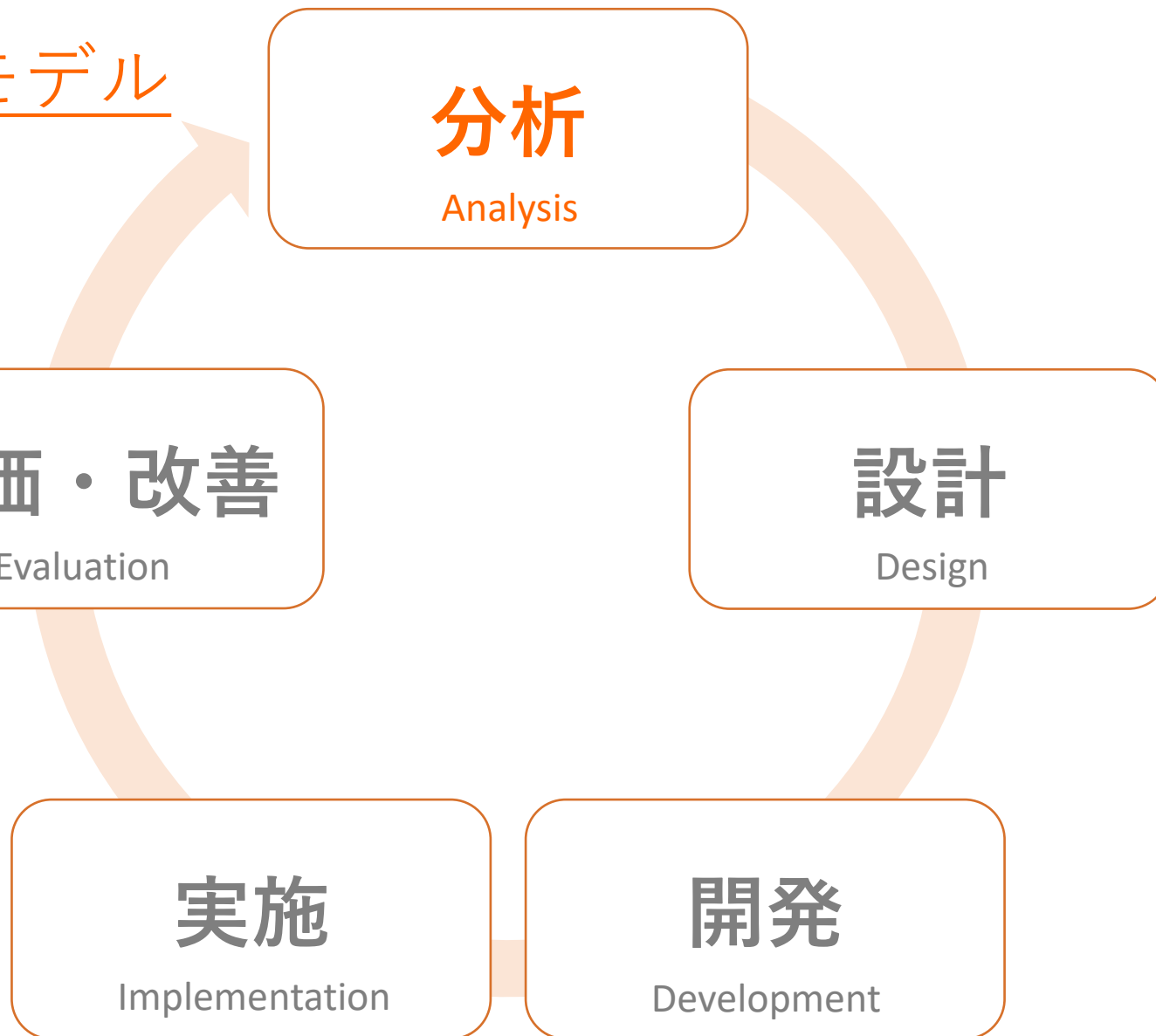
Evaluation

実施

Implementation

開発

Development





## 従来のシミュレーション

- ✓ 2～3回/年の実施
- ✓ 内容：小児の心停止、不整脈、呼吸不全
- ✓ 指導者・学習者：看護師のみ
- ✓ 参加人数：10～15名程度/回
- ✓ 1人当たりの参加回数：0～3回/年
- ✓ 学習者の声
  - 「緊張する」
  - 「苦手」
  - 「参加するのが嫌」

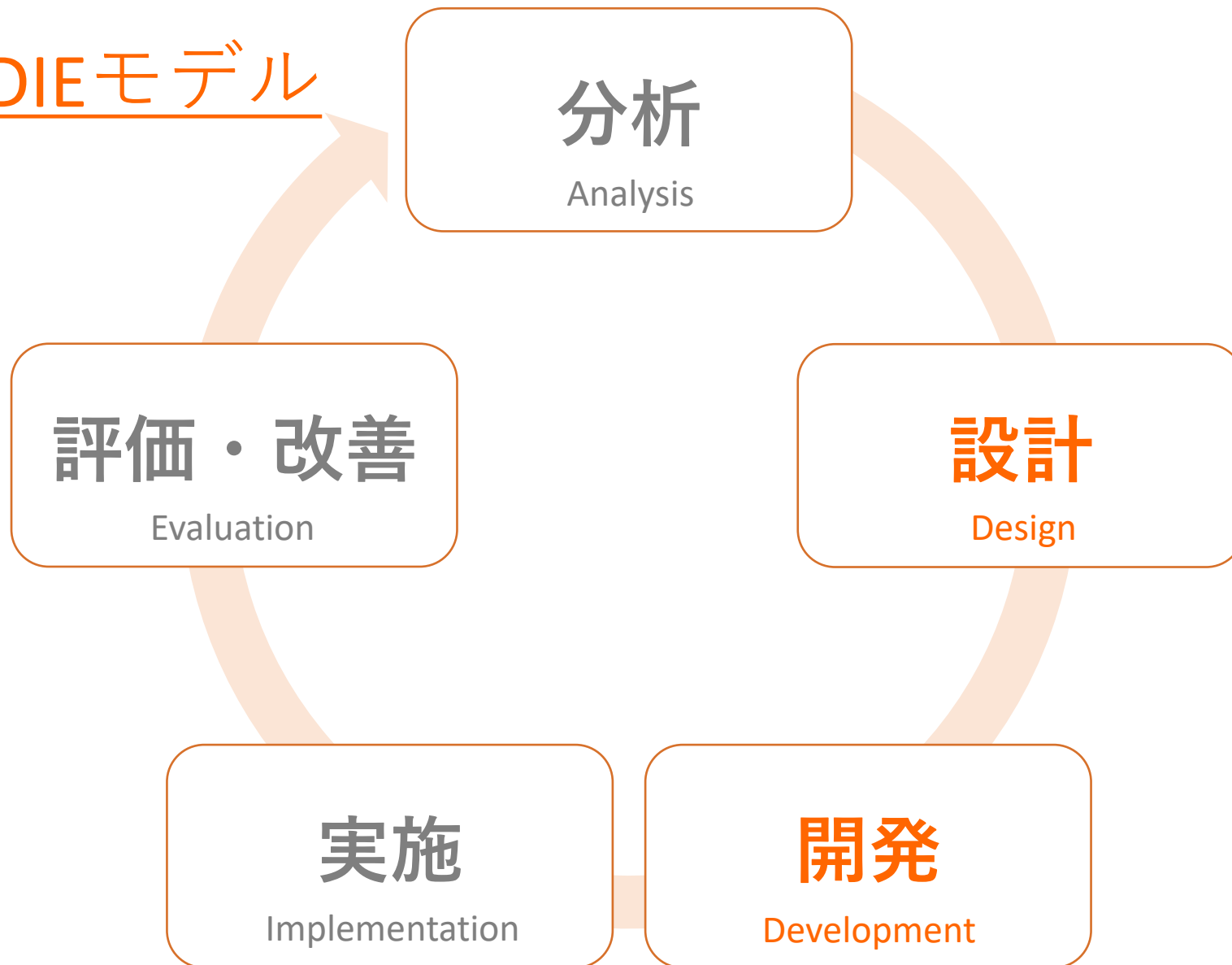
## 課題

- ✓ 学習者の**レディネスとニーズ**に合っていない
- ✓ シミュレーション内容が**実践に結びつきにくい**
- ✓ 学習者が**苦手意識、緊張感**を抱いている



# 設計・開発

## ADDIEモデル





**課題1** ✓ 学習者の**レディネス**とニーズに合っていない

## 学習者のレディネスに近づける

- ・ 病棟目標にシミュレーションの参加を組み込む
- ・ 看護師ラダー別に目標の設定

○病棟目標：シミュレーションに**年2回以上参加**する

- ✓ ラダーレベル0(1年目) ……参加できる(見学含む)
- ✓ ラダーレベル0(2年目)1 ……指示のもと動ける
- ✓ ラダーレベル2 ……指示なく自ら動ける
- ✓ ラダーレベル3 ……指示ができる  
指導できる





# 設計・開発

## 課題1

✓ 学習者のレディネスと**ニーズ**に合っていない

### 学習者のニーズ

- ・ 聞き取り調査
- ・ 急変時の振り返りカンファレンス



不足している知識・技術の再考



# 設計・開発

## 課題2 ✓ シミュレーション内容が**実践に結びつきにくい**



リーダー

アルゴリズムに則って  
医師が指示を出すよ



臨床に近い設定



# 設計・開発

**課題3** ✓ 学習者が**苦手意識**、**緊張感**を抱いている

- ・ 小児の心停止シミュレーションは  
同様の内容で月1～2回開催
- ・ 1回のシミュレーション参加人数を5人程度
- ・ 日勤勤務後30分～1時間程度



緊張感の軽減

参加しやすいシミュレーション

知識・技術の定着



## 現在のシミュレーション



ECPR

小児の心停止



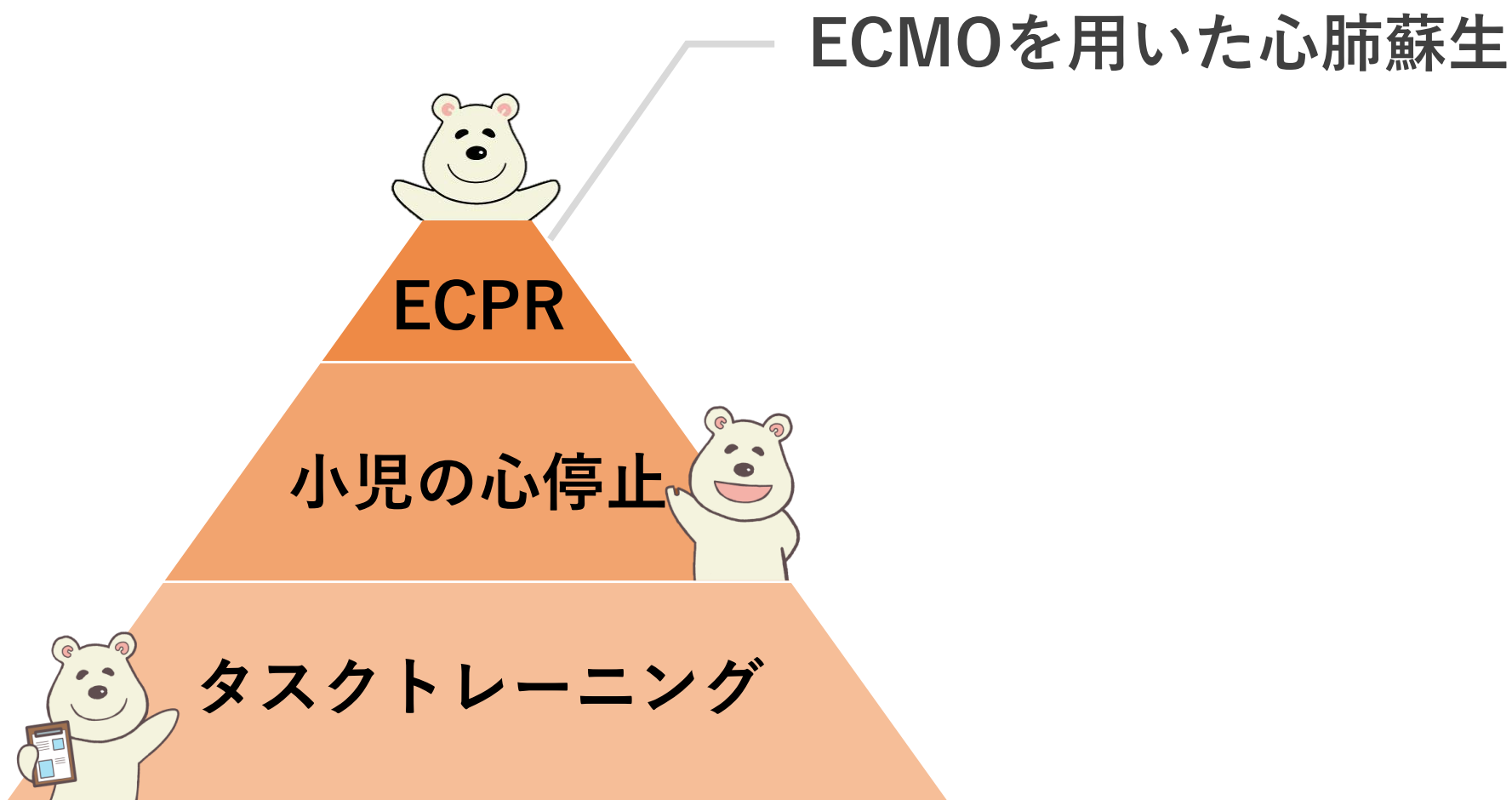
タスクトレーニング





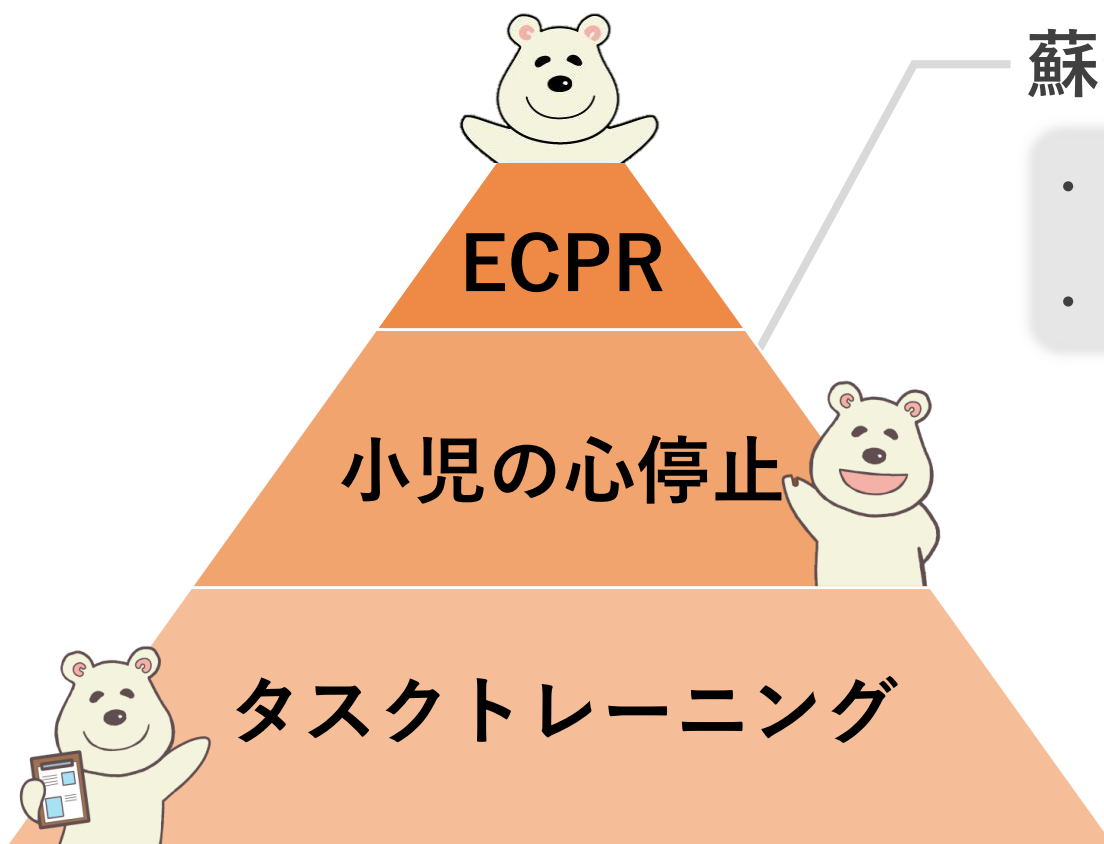


## 現在のシミュレーション





## 現在のシミュレーション

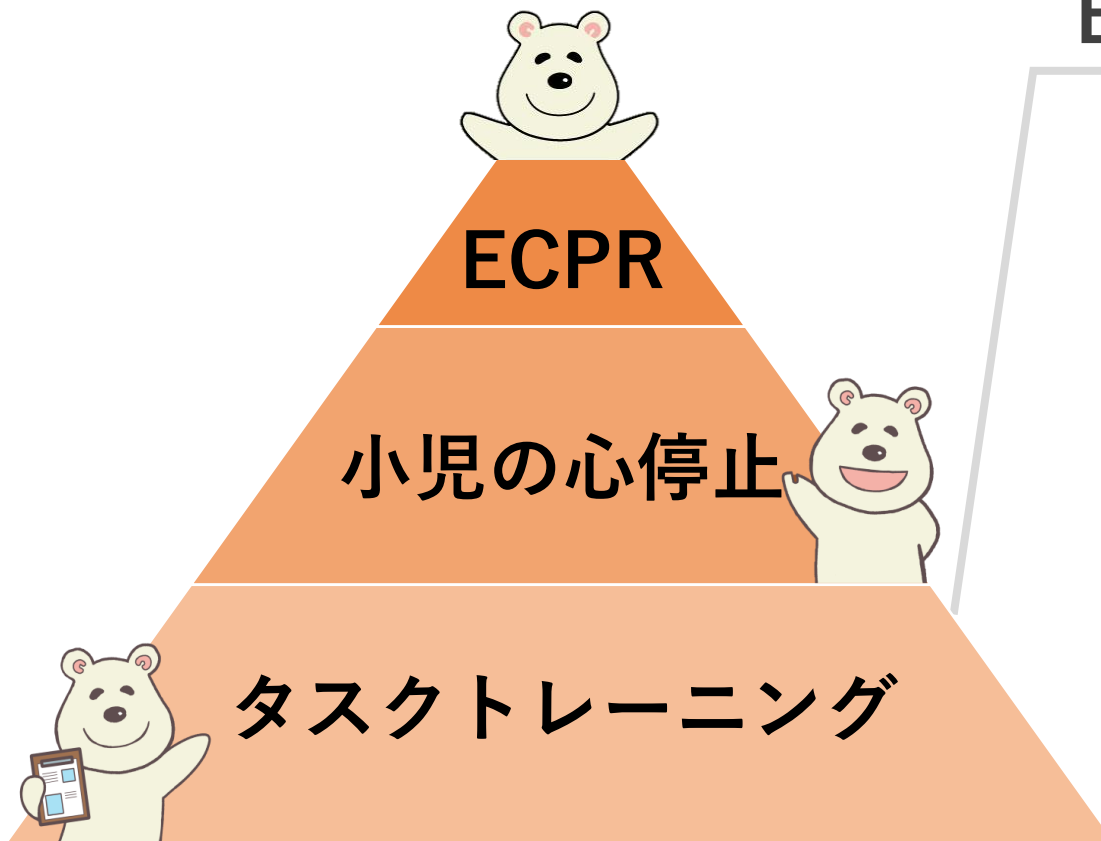


### 蘇生のシミュレーション

- ・ アルゴリズムの流れ
- ・ チームダイナミクス



## 現在のシミュレーション



### ECPR、小児の心停止で 必要な知識や技術

- ・ アルゴリズム
- ・ 骨髄針
- ・ DC
- ・ 薬剤準備
- ・ 器械展開
- ・ ECPRリーダー



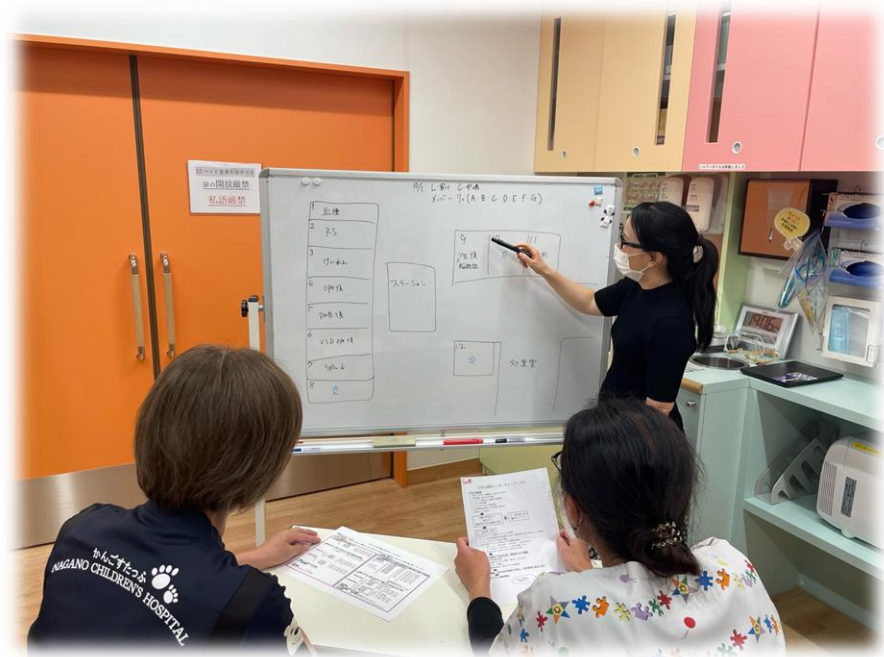
# 設計・開発



小児の心停止  
シミュレーション



## シミュレーションの様子



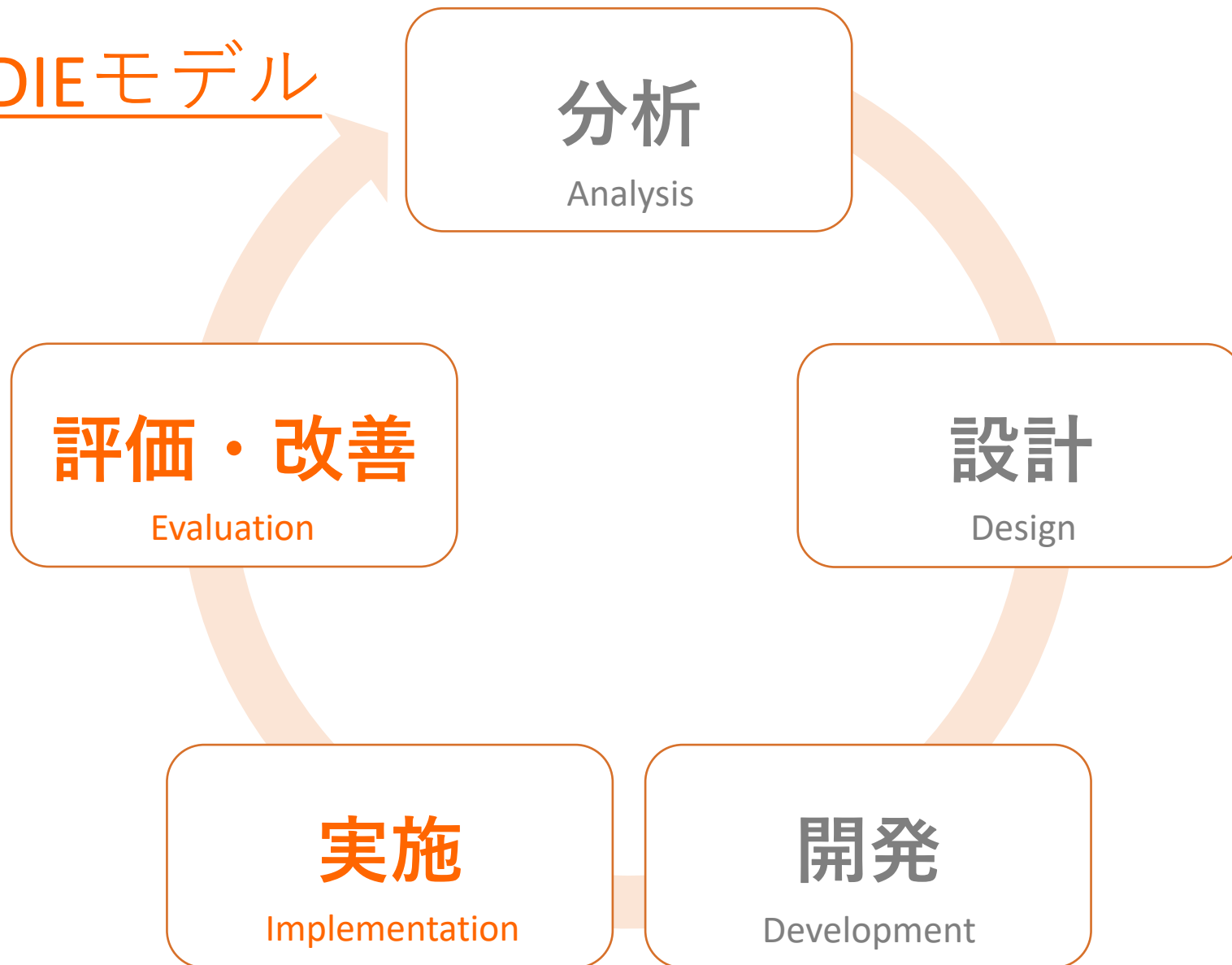
タスクトレーニング  
ECPRリーダー





# おわりに

## ADDIEモデル





ご清聴ありがとうございました。



令和6年度 長野県医療従事者シミュレーション教育指導者研究会 一般演題

# 薬剤師におけるシミュレーション研修について ～今までの振り返りと今後の展望～

2024.10.19

長野県立信州医療センター 薬剤部<sup>1)</sup>、本部研修センター<sup>2)</sup>

大塚さほり<sup>1)2)</sup> 田中健二<sup>1)</sup>

令和6年度 長野県医療従事者シミュレーション教育指導者研究会  
利益相反の開示  
筆頭発表者名：大塚 さほり

私は今回の演題に関連して、  
開示すべき利益相反はありません。



# 本部研修センター兼信州医療センターにおける 研修に関する実施内容について

1 新人薬剤師に対して

病院訪問、他部署見学

本部研修センターとして実施

2 実務実習生、2年目薬剤師※に対して

信州医療センターでシミュレーション研修を実施

信州医療センター薬剤部として実施

**役割は「繋ぐ」こと**

本部研修センターでは

- ・ 5病院薬剤部との連携

信州医療センター薬剤部では

- ・ 本部研修センターとの連携  
を目指している

※2年目薬剤師とは、長野県立病院機構に属する他病院から研修にきた2年目の薬剤師を指す。

## 【はじめに】

2021年度、本部研修センター（以下研修センター）では年間を通して若手医師・医学生、看護師・看護学生向けのシミュレーション研修（以下研修）を年20回以上計画に沿って実施していた。

一方で、薬剤師に研修を行った実績はなかった。  
薬剤師のための研修があってもよいのではないかと考え  
実践してきた内容を報告する。

# 【目標】

- ① 薬剤師向けのシナリオを作成して研修を実践すること
- ② 8疾患のシナリオを作成して実務実習生のカリキュラムに盛り込み実践すること
- ③ 薬剤部内にシミュレーションチームを立ち上げて研修を行うこと
- ④ 機構5病院の薬剤師に研修を広めること

## 【実践した内容】①

### ☆ シミュレーション教育のスキルを学習してシナリオを作成する

- 2022年7/12(火)～7/23(土) 第37回Fun Sim J Onlineに参加  
グループ人数内訳と職種：看護師4人・薬剤師1名 計5名  
学習者：新人薬剤師
- シナリオ：アナフィラキシーショック（コロナ予防接種時）対応を作成

第37回Fun Sim J Onlineに参加した当時の今後の展望

- 学んだことを生かして、**薬剤師向けのシナリオを作成**していきたい
- 今回作成したシナリオをブラッシュアップして当院で**研修を行いたい**



2022年度新人薬剤師2名と2年目他施設研修薬剤師2名に研修を実践



## ☆ 薬剤師向けの研修を実践 ①

◎ 新人薬剤師 2 名に実践した研修内容

- ・ 2022/8/29 シミュレーション研修

◎ 2 年目他施設研修薬剤師 2 名に実践した研修内容

- ・ 2022/9/26 基礎編としてフィジカルアセスメントの講義と演習
- ・ 2022/9/28 応用編としてシミュレーション研修

シナリオ：新型コロナワクチン接種後のアナフィラキシー対応

研修後アンケート調査を行った。



シミュレーション研修は、臨床薬剤師を育てていく手段として効果的であった  
臨床に必要となるフィジカルアセスメントのスキルアップは重要という結論を得て  
第33回医療薬学学会「薬剤師におけるシミュレーション研修の効果」ポスター発表した

この成果を生かすために更なる研修シナリオ作成が必要  
⇒実務実習生のカリキュラムにもある8疾患のシナリオ作成を検討

## 【実践した内容】②

### ☆ 8疾患のシナリオを作成して実務実習生のカリキュラムに盛り込み実践すること

2023年度薬学生実務実習生 2名受け入れ

5月より7月（第2期）

8月から11月(第3期)

実務実習生にも研修を実践したい！

事前準備として代表的な8疾患（がん・高血圧症・糖尿病・心疾患・脳血管障害・精神神経疾患・免疫,アレルギー疾患・感染症）のシナリオを作成に取り掛かった。

- ・ 8疾患のシナリオのうち4疾患は第2期の実務実習カリキュラムに盛り込んだ

## ☆8疾患のシナリオを作成して実務実習生のカリキュラムに盛り込み実践すること ②

第2期の学生に実践した4疾患の研修内容

- 2023/6/8 結核について
- 2023/6/15 糖尿病について
- 2023/7/3 深部静脈血栓について
- 2023/7/19 胃がんについて



- 研修センターメンバーのフォローがあって **4疾患の研修は実践** できた
- 第3期の学生の研修には実臨床に携わっている薬剤師に協力してもらえたら、更により研修になるのではないかと、関わってもらうにはどうしたらよいか

**研修を業務**にすることで実臨床の薬剤師が研修に関わることができる

## 【実践した内容】③

### ☆研修を業務にする

2023年薬剤部内に**スモールグループ活動**が開始

- 業務としてシミュレーションができるように、**シミュレーションチーム**（以下チーム）を提案し立ち上げた
- 自身を含め2023年度は5名の薬剤師がチームメンバーとなった
- メンバーの内4名で4疾患のシナリオを作成した
- シナリオ作成者が研修開催の中心となり研修を実践した



# 薬剤部スモールグループ活動とは

## 目的

信州医療センター薬剤部における「新しい取り組み」、「経営上プラスになる取り組み」、「学術的な取り組み」などについて、各自が主体的にテーマを決め計画的に取り組み、成果を形に残すというステップを通じ、個々のスキル向上と仕事に対するモチベーション向上を図るとともに、薬剤部全体の資質向上、発信力強化、及び病院内での認知向上につなげる。

新しい取り組み、学術的な取り組みとして**シミュレーションチーム**が発足

(2023年7月)



# シミュレーションチーム立ち上げのための提案内容

- テーマ

研修センターとの連携強化による人材育成、教育機能の充実  
(フィジカルアセスメント、シミュレーションを実践する会)

- 背景・現状・問題点

若手薬剤師の臨床知識・他職種間のコミュニケーション能力・意思決定スキル等をもつて高める手段として「シミュレーション・フィジカルアセスメント研修」は有効だとも思うが、ベースがないため実践できない

- 意義・目的予想される成果

研修センターと連携して、薬剤部にフィジカルアセスメント、シミュレーション研修シナリオを作成し、現場の臨床薬剤師、新人薬剤師、学生等に実践する。

## ☆ チームを立ち上げて実施した内容 ③

第3期の学生に実践した4疾患の研修内容

- 2023/9/5 COPD
- 2023/9/12 パーキンソン病
- 2023/9/28 川崎病
- 2023/10/26 心不全

- 第3期の学生には新たな4疾患の研修を実践した
- 計**8疾患のシナリオが完成**した



- チームで行った研修は受ける側・実践する側双方で有効であったという結果を得て、第34回日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会で「チームで行ったシミュレーション教育の有用性」について発表した
- 指導者育成の必要性を痛感した。

この成果（＝研修に携わった薬剤師側もメリットがあるという経験）を活かし  
機構5病院薬剤師にも研修を展開していきたい

## 【実践した内容】④

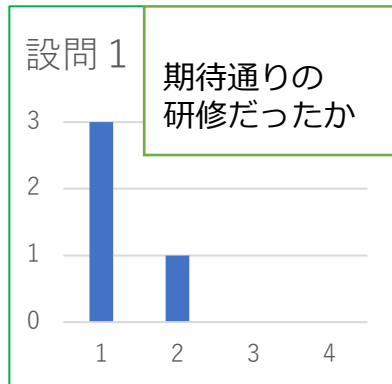
### ☆研修センターとして実施した研修について

- ・ 2022年度より、研修センターの業務の一環として新人薬剤師訪問を行っている。
- ・ 今年度の新たな取り組みとして、**電話対応シミュレーション**を行った。
- ・ 基本のシナリオは自身が作成し木曽病院・こども病院は2023年度2年目他施設研修で研修を経験した薬剤師がシナリオをアレンジした。

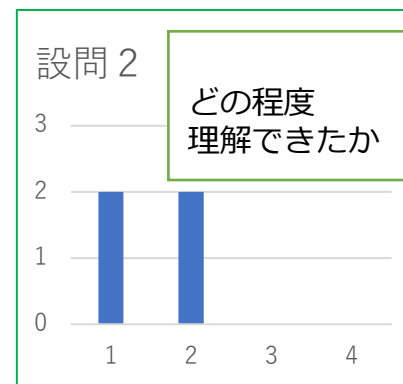
新人が在籍する施設の**部長・及び研修経験者を巻き込んで**の研修となった  
研修後アンケートをとった対象は以下のとおり  
学習者：新人薬剤師4名 指導者：薬剤部長3名・薬剤師4名

# 3施設のアンケート結果

## 学習者 4名

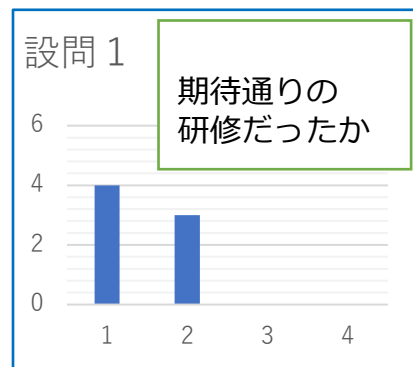


- ・電話対応の内容がリアルで現実に起こりそうな場面を想像できるものだった
- ・電話対応における**自分自身の課題が明確になった**ため
- ・実際に行ってみてこのようなことも聞かれるのかと新しい発見ができた



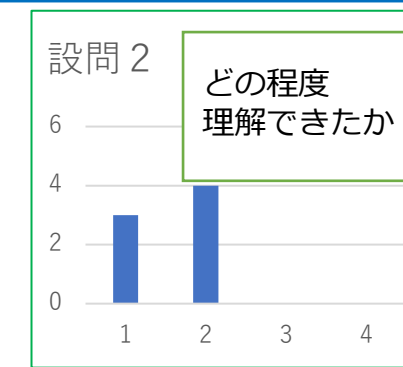
- ・ ISBARCを使うことで相手に状況を正確に伝えられることが実感できた
- ・ いそぎの尺度や何を聴くべきか電話対応のポイントの理解が深まった
- ・ 復唱を行うことの重要性を知れた
- ・ 先輩の過去の経験をもとに研修の機会をいただき大変勉強になった

## 指導者 7名



- 1 : とてもそう思う
- 2 : そう思う
- 3 : あまりそう思わない
- 4 : 全くそう思わない

- ・ いろいろな課題が挙げられてよかった
- ・ どのように新人が対応するのか、自身も**再確認**ができた
- ・ 自分に不足していることを学ぶことができた
- ・ リアルな状況を演出できていた
- ・ **シミュレーション学習は臨場感があり本番同様の緊張感もあり、学習効果が高い方法**だと感じた



- 1 : 十分に理解できた
- 2 : ほぼ理解できた
- 3 : あまり理解できなかつた
- 4 : 全く理解できなかつた

- ・ シナリオ作りの大変さについて理解することができた
- ・ 繰り返し行って行くことで学びを深めていければよい
- ・ **学習者・指導者どちらの立場でも相手がどのように対応するか観察することが良いところ。自分に足りない部分がよくわかり**とても勉強になる
- ・ 実際の場面で動ける**医療人教育のため必要**。もっと多くの薬剤師に体験してもらいたい

## <アンケート結果より>

- 自分自身の課題が明確になった
- 学習者・指導者どちらの立場でも相手がどのように対応するか観察できるところがメリットであり、自分に足りない部分がよくわかるからとても勉強になった
- 研修は臨場感があり本番同様の緊張感もあり学習効果が高い方法だと感じた
- 研修は実際の場面で動ける医療人教育のため必要、もっと多くの薬剤師に体験してもらいたい

• 研修が医療現場で活かせることを実感してもらえた

• **機構 5 病院薬剤師に研修を広める**  
第1歩となった



# 【振り返り】

きっかけ：薬剤師にも研修を行ってみたいという思いから

その後：徐々に薬剤師に研修を広めたいという気持ちが強くなる

何故：研修は臨床薬剤師を育てていく手段として効果的だと実感したから

- ・ 2023年度 8 疾患のシナリオを機構本部「シナリオ共有事業」に登録して 2024年度の実務実習生・新人薬剤師・2年目薬剤師に4疾患を活用した。
- ・ チームで研修ができたことは指導者育成の第1歩であった。
- ・ 新人訪問の際の研修は、県立5病院の薬剤師に研修を知ってもらうよい機会であった。これにより、2024年度「シミュレーション教育スキルアップシリーズ」への参加のきっかけともなった。

# 【研修の振り返り】

## 学習者のメリット

- ・自身で考えて行動できる対応力が身につく
- ・聴き取る力・伝える力・周囲との連携のとり方が学習できる
- ・臨床現場で起こりうる万一の事態を想定した研修ができる
- ・失敗しても何度でもやり直せる
- ・自身の課題が明確になる

## 指導者のメリット

- ・自分自身の苦手なところや不足しているところと向き合え、どのように指導したらよいか考えるきっかけになる
- ・教える立場になったことで知識が深まる
- ・学習者の知識の再確認ができる
- ・シナリオ作成や研修計画を実践することで自身の振り返りやスキルアップができる

## 組織のメリット

- ・病態のみならず、病棟業務やチーム医療等を行うにあたっての他職種・患者とのコミュニケーションのとり方も学習でき業務がよりスムーズになる
- ・概念化することにより応用のきく人材育成ができる
- ・模擬的に行え医療安全に貢献できる
- ・薬剤師のやる気にも繋がり活気がでる

## 今後の目標

- ・指導者育成を行うこと
- ・研修体制を構築すること

# 【今後の展望】

薬剤師に研修を展開していくためには

## ◎ 指導者の育成

### ① 指導者育成ツールのひとつ

「シミュレーション教育スキルアップシリーズ」への更なる参加を呼び掛けていく

### ② シミュレーションチームで引き続き研修をおこなう

## ◎ 研修体制の構築

新人薬剤師の研修カリキュラムを作成する

まず 当院で作成して実践する

⇒ のちに機構5病院薬剤部長に提案していけたら

# 【まとめ】

- 臨床現場での薬剤師の役割に沿った研修は効果的
- チームで行った研修は受ける側と実施する側双方に有効である

**薬剤師に灯った研修への熱意を定着につなげたい！**



# 多職種インストラクターチームの活動報告

—多職種による多職種のためのシミュレーショントレーニング—

宮澤祥太<sup>1)</sup> 北原佐津貴<sup>2)</sup> 武井美佐緒<sup>2)</sup> 酒井聖<sup>1)</sup> 阿部聖也<sup>3)</sup> 廣瀬佳子<sup>4)</sup>

伊那中央病院 1)リハビリテーション技術科 2)看護部 3)臨床工学科  
4)メディカルシミュレーションセンター事務局



# COI開示

---

演題発表に関連し  
開示すべきCOI関係にある  
企業 法人又は団体はありません

# はじめに

---

## 多職種連携とは？



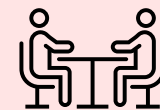
# 多職種連携に不可欠なもの



## 相互理解

価値観  
人間性  
倫理観  
職域  
考え方

## 相互尊重



アサーティブ  
コミュニケーション  
協調的  
發展的  
傾聴



## 信頼関係

## 多職種連携教育

# 多職種インストラクター チームの立ち上げ

## チームメンバー

看護師	1名
助産師	1名
理学療法士	2名
臨床工学技士	1名
事務局	1名



# 多職種インストラクターチームの活動

## 2023年度

6月

立ち上げ  
活動目的の共有

7月

多職種の学習  
ニーズ調査  
※昨年度の研究会で発表済み

8月

「腹臥位タスク  
トレーニング」  
を企画

11月

「腹臥位タスク  
トレーニング」  
事前学習課題作成  
αテスト  
開催

12月

「休日の粘膜暴露  
事故発生時の  
対応」の企画  
αテスト



# 多職種インストラクターチームの活動

## 2024年度

5月

「腹臥位タスク  
トレーニング」  
2回目  
「休日の粘膜暴  
露事故発生時の  
対応」企画

6月

「休日の粘膜暴  
露事故発生時の  
対応」を薬剤  
部・診療技術部  
合同研修会で開  
催して頂けるよ  
う依頼

7月

長野県医療従事  
者シミュレー  
ション教育指導  
者研修会参加の  
準備

8月

「腹臥位タスクト  
レーニング2回  
目」の募集開始  
「呼吸音の聴取  
基礎編」を初めて  
リハビリテーショ  
ンスタッフも対象  
にして開催

9月

「腹臥位タスク  
トレーニング2  
回目」の開催  
薬剤部・診療技  
術部合同研修会  
担当者へβテス  
ト開催

# 多職種によるシミュレーション トレーニングの実際

立ち上げから6ヶ月

初めて多職種のための多職種による  
シミュレーショントレーニング開催



# 研究テーマの背景

---



「自分の仕事をするために必要な基本的知識・技術  
専門的知識・技術」の学習ニーズが高かった



実臨床で多職種が連携しないと難しい課題



COVID-19を経て腹臥位療法に注目が集まっていた

**腹臥位療法タスクトレーニング**




多職種で連携し 安全で効果的な

腹臥位療法を実践する

# 学習目標

- ① 腹臥位療法の効果・適応・禁忌について理解ができる
- ② 腹臥位療法のための事前準備が行え お互いの役割が理解できる
- ③ 腹臥位療法の実践を通して 留意点を多職種で共有できる



	ICU・救命センター看護師	7名
	理学療法士・作業療法士	5名
	臨床工学技士	4名

## タイムスケジュール



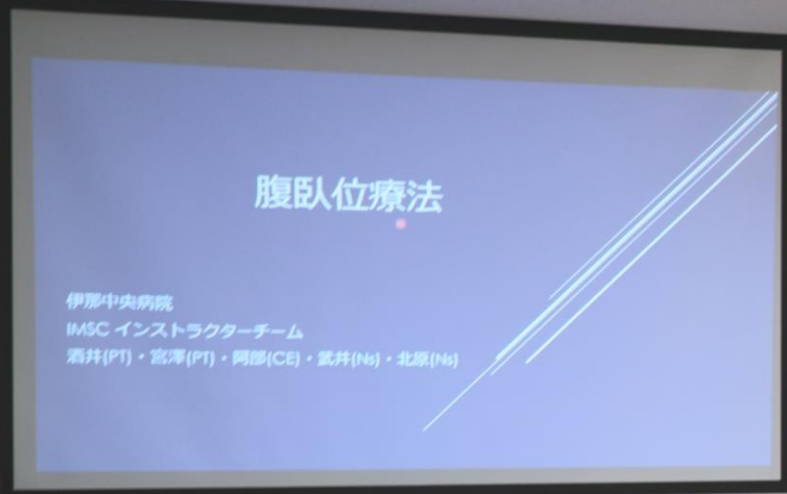
ブリーフィング	5分
シミュレーション 1回目	10分
デブリーフィング	10分
シミュレーション 2回目	10分
デブリーフィング	10分
まとめ	5分



# 事前課題で配布した動画

---

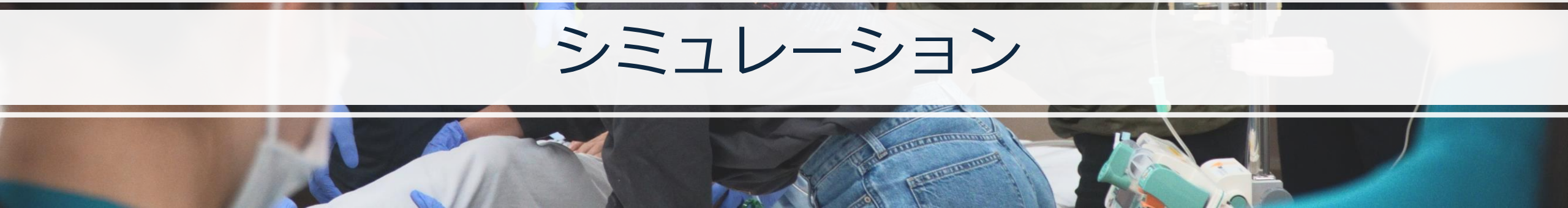
腹臥位タスクトレーニング



集中治療理学療法士によるミニレクチャー



腹臥位タスクトレーニング



シミュレーション

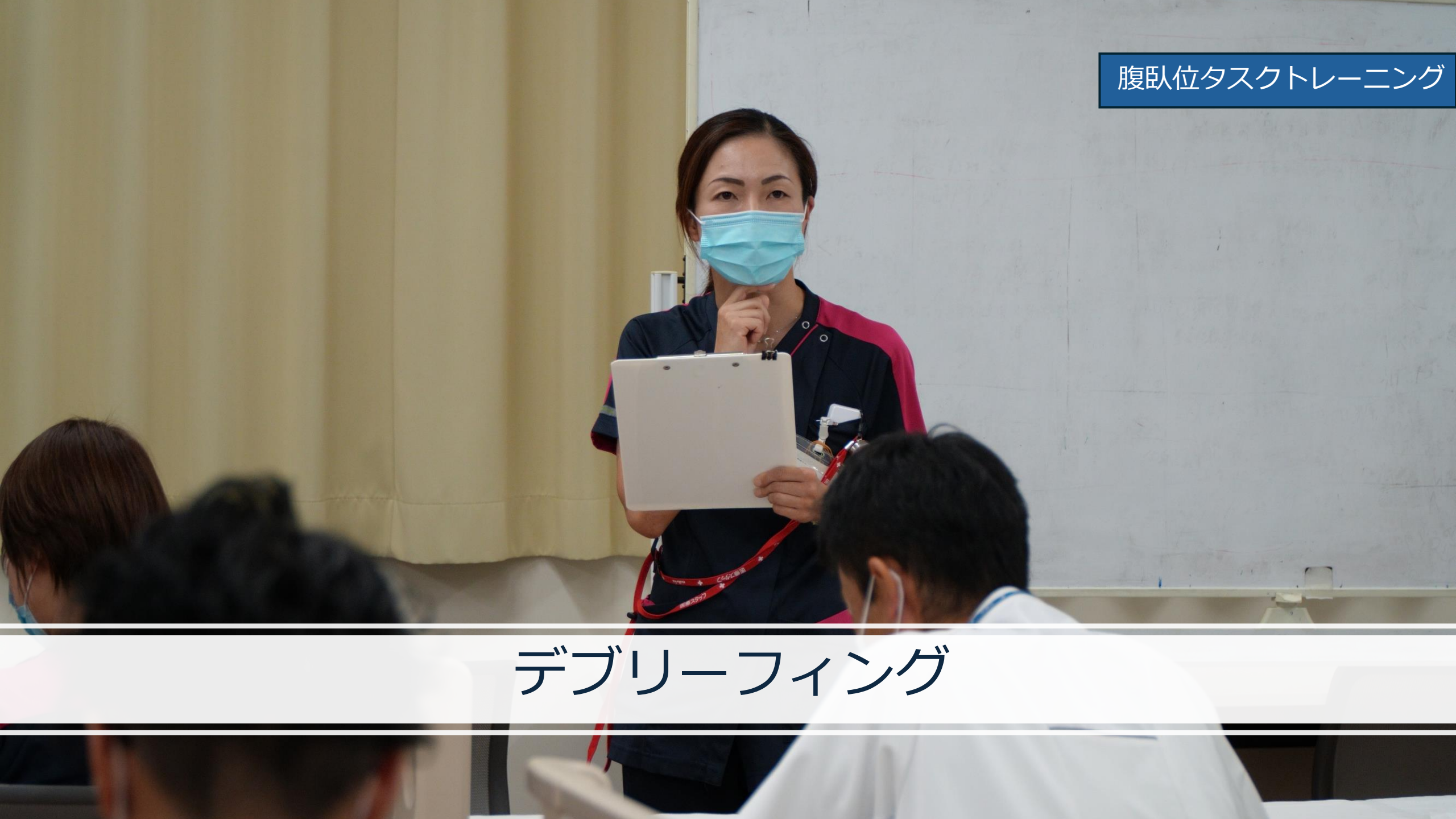




グループディスカッション



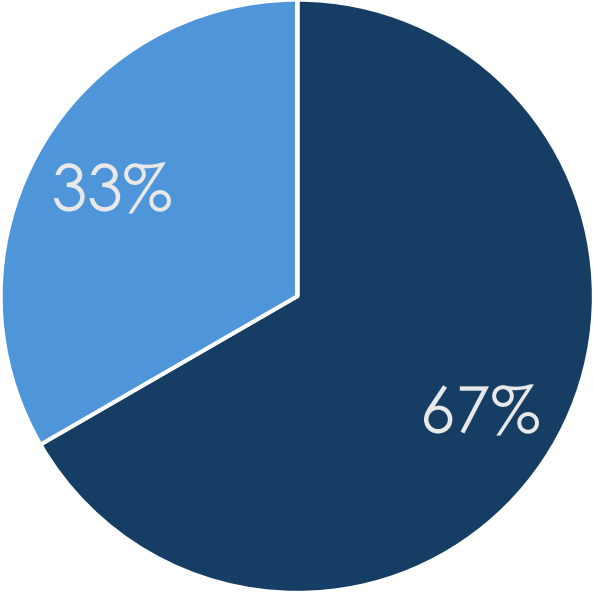




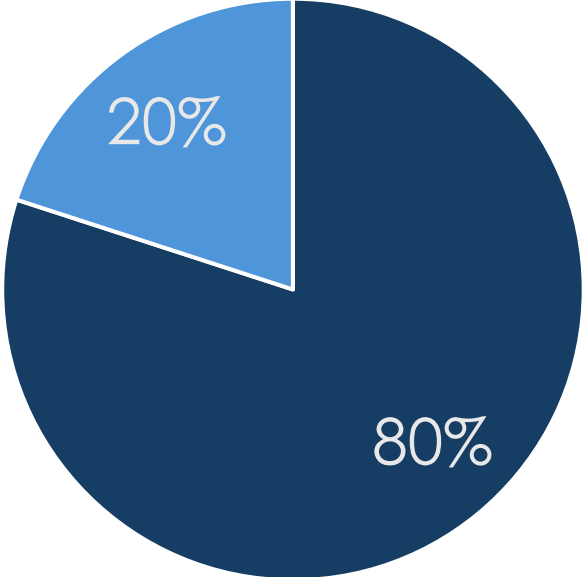
# デブリーフィング

# 受講者評価—目標達成度—

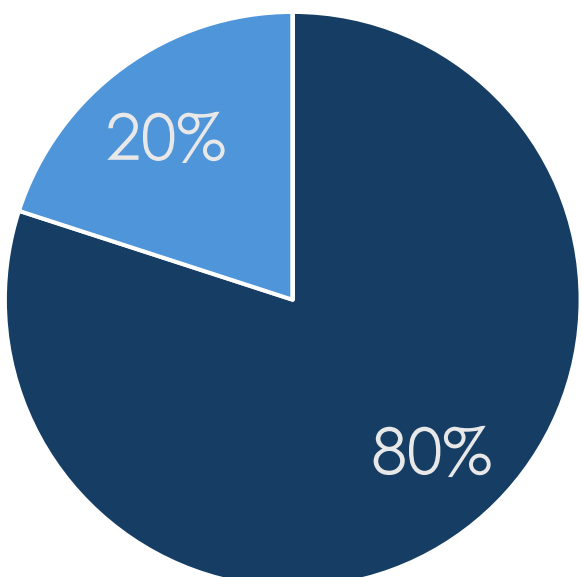
腹臥位療法の効果・適応・禁忌  
について理解できる



腹臥位療法のための事前準備が行え  
お互いの役割が理解できる

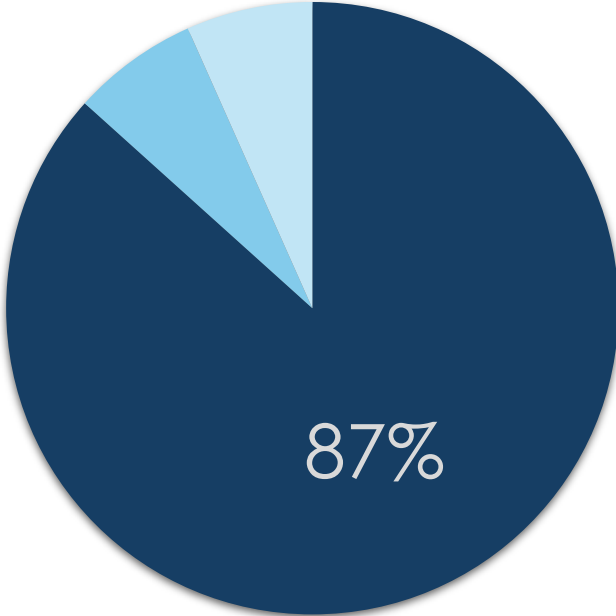


腹臥位療法の実践を通して  
留意点を多職種で共有できる



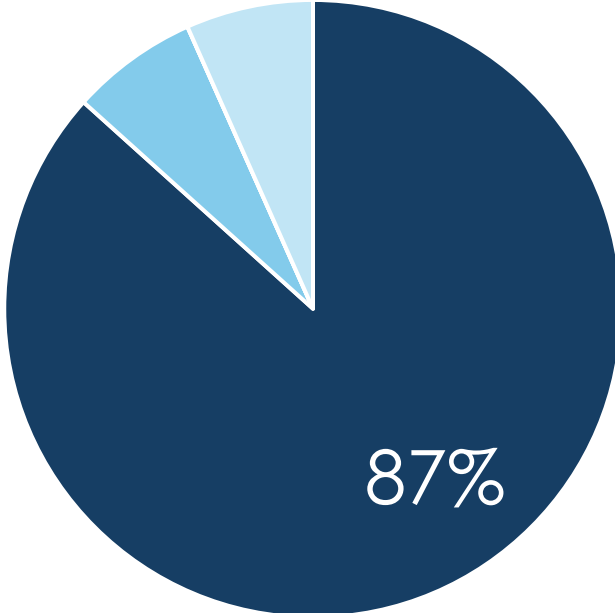
# 受講者評価—研修評価—

研修内容はねらいに合っていたか



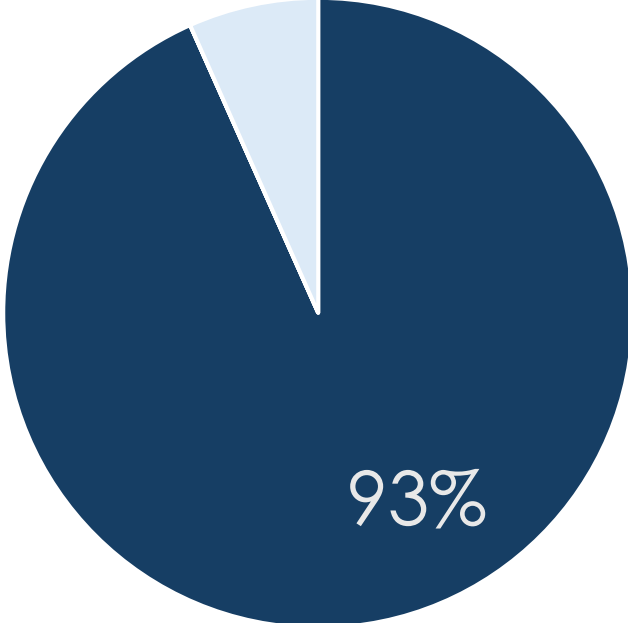
- とてもそう思う
- 全くそう思わない

研修で学びたかったことは学べたか



- そう思う
- 無回答

研修内容はわかりやすかったか



- あまりそう思わない

# 研修後の感想




- ① 多職種で意見交換できたので とても勉強になった
- ② 本番でのスムーズさにつながると思った
- ③ 多職種の考えを聞きながら学べるのはとても良いと思った



# 企画者評価

- ① 受講者に積極的に参加して頂けた
- ② 「相互尊重」「相互理解」につながるディスカッションができた
- ③ 職種ごと注目するポイントが違うことに気付く貴重な機会となった
- ④ 学習ニーズに沿った研修企画の必要性を実感できた

# 考察

-  「相互尊重」「相互理解」につながるコミュニケーションの機会を設けることが出来たことが有益であった
-  多職種が研修企画に関わることでメリットが多いことを実感した
-  多職種で行える研修を通して「相互尊重」「相互理解」を深め 多職種連携を発展させていきたいと考える

# まとめ

---

- 💡 多職種連携教育を推進するため多職種インストラクターチームを立ち上げた
- 💡 「腹臥位療法タスクレーニング」は多職種間のコミュニケーションをとる貴重な機会となった
- 💡 「相互尊重」「相互理解」を深め 多職種連携を発展させる手段として多職種連携教育を推進していきたい

# 長野県立病院機構 シミュレーション教育の取組み ～医療的ケア・緊急時対応訓練～

令和6年10月19日

本部研修センター



# 本部研修センター

## • 基本理念

県民が求める「安心して質の高い医療」を提供できる医療人の育成に努めます。

## • 基本方針

1. 地域医療および専門医療を提供できる医療人を育成します。
2. 県立5病院の特色を活かした研修体制を構築します。
3. 社会が求める医療人を育成できる指導者を養成します。
4. 多職種連携教育によりチーム医療を推進します。
5. キャリアアップを図る研修システムを構築し、広く地域の医療人育成に貢献します。



# シミュレーション教育指導者の研修

研修名		研修内容
スキルアップシリーズ①②③(2016~)		基礎的知識の習得とシナリオ作成
シナリオブラッシュアップ講座(2020~)		作成したシナリオの評価と修正改善
機構職員派遣事業	シミュレーション基盤型教育セミナー (Fun Sim J) (2016~)	シミュレーション教育指導の基本
	シミュレーション教育指導者研修 (iSIM J) (2020~)	Fun Sim- Jの受講で修得した スキルや知識の向上

# 長野県立病院機構

シミュレーション教育指導者委員会（2019～）

## 【目的】

シミュレーション教育に携わる職員が連携し、  
教育指導者の育成及び研修の充実を図ること

- シミュレーション教育指導者の連携
- 研修支援（スキルアップファシリテータ等）
- シナリオ情報共有
- 研究会との連携、協力

# 長野県医療従事者

シミュレーション教育指導者研究会（2022～）

## 【目的】

シミュレーション教育を活用した研修の実施と研究に取り組み、長野県内医療従事者の技術水準向上に貢献すること

- ・シミュレーション教育指導者研究会開催
- ・シミュレーション教育指導者研究会の企画、立案

# 医療従事者および学生等の教育

職種	研修名
医師等	信州医療センター初期研修医定期シミュレーション教育プログラム
	ハワイ大学医学部SimTiki研修（研修医コース）
	医学生対象シミュレーション教育プログラム
看護職員等	信州木曾看護専門学校 救命救急特別講座
	<b>医療的ケア・緊急時対応訓練研修会</b>
	保健師専門研修 ・採血編・在宅医療技術編
薬剤師等	薬学病院実務実習生フィジカルアセスメント
	薬剤師向け勉強会フィジカルアセスメント
	新規採用薬剤師フィジカルアセスメント
その他	中学校BLS講習会

# 医療的ケア・緊急時対応訓練

## 1 研修目標

- (1) 緊急時対応マニュアルに基づいた看護ケアをシミュレーションにより実施し、課題、およびマニュアルの修正ポイントを抽出できる。
- (2) 緊急時対応マニュアルに基づいた全体の行動をシミュレーションにより実施し、課題、およびマニュアルの修正ポイントを抽出できる。

### \* 特別支援学校の看護師 スキルトレーニング

人工呼吸器を装着している生徒の緊急時対応(看護技術編)

- ・ カニューレ閉塞
- ・ けいれんによるファイティング
- ・ 呼吸器回路の亀裂
- ・ 計画外抜去

### \* 総合演習

- ・ 人工呼吸器を装着中の児童生徒緊急時対応訓練







カニューレ閉塞

それぞれのシナリオでシミュレーション体験



カニューレ計画外抜去



けいれん対応



呼吸器回路トラブル



# 総合演習



教室を使って緊急時  
対応訓練





今後とも研究会の運営に関しまして  
各病院等のご理解とご協力をお願いいたします。



# 特別講演

「他（多）職種とのシミュレーションをうまくやるために」  
「シミュレーションを身近に感じるための取組み」

講師 赤嶺 陽子氏（大阪市立総合医療センター）

## シンポジスト

北原	佐津貴氏	（伊那中央病院）
大塚	さほり氏	（信州医療センター）
横山	みゆき氏	（こども病院）

**本日はご参加ありがとうございました。**

**会場参加者はアンケートに回答後、ご退室ください。**

**Zoom参加者も、できれば今ご回答ください。**

**今回回答できない場合は、明日17時までにご回答お願いします。**

**どちら様もお気をつけてお帰りください。**

**See you next time!**